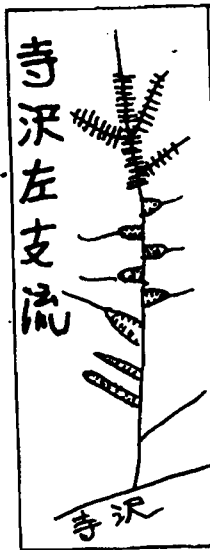


8:40二俣を右に進むと、ようやく最初の滝が現われる。3m, 5mのナメ滝だ。そして5m滝を越えともう源流である。左右から支沢が合わさり、水量も少なくなる。水が消えてもヤブはそれほど悪くなく、明るい瀬頭である。左の斜面に取り付くと、すぐ稜線となる。10:00遡行終了。 (記・新)

[タイム] 出合(7:35)→二俣(8:40)→遡行終了(10:00)

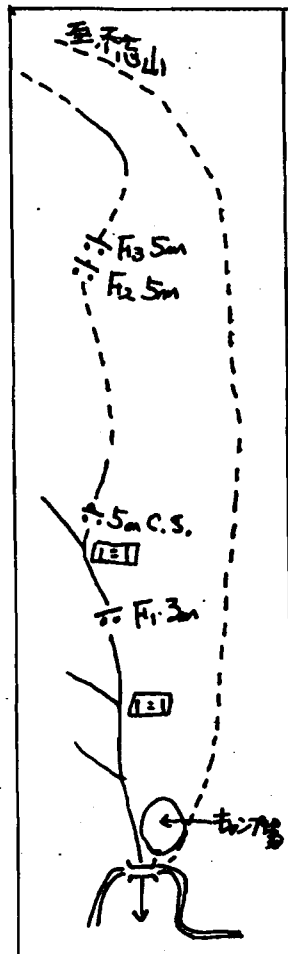


寺沢左支流 1990年7月8日  
L5

稜線上でひと休みしてから下降にかかる。ヤブをこいで降りていくと、足場の悪いガレ場に出る。落石に注意しながら降りていくと、沢状となった。沢は急な樋状のナメで、慎重に下る。沢には特になにもなく、ナメ状に侵食された支沢が左右から合流するが、水量はごく少ない。やがて沢の傾斜もゆるくなり、堆積物も多くなってきた。一部伏流となっている所もある。

11:10寺沢本流に出る。水量比は5:1である。そのまま本流を下降して、11:50鶴沼川出合。鶴沼川を渡渉して終了とする。12:15。 (記・)

[タイム] 稜線(10:00)→寺沢本流(11:10)→下降終了(12:15)



蔵王・ケチャグラ沢

1990年6月24日